

岸田外務大臣寄稿（概要）

日本と欧州

～次の50年間の世界の平和を確保するために～

過去50年間、ミュンヘン安保会議は、ヨーロッパや世界の平和を願う者を惹き付ける磁石であった。アジア太平洋を始めとする他の地域にも手を差し伸べたミュンヘン安保会議の磁力は、次の50年にますます強くなるであろう。

アジア太平洋は世界のパワーバランスの変化の中核であり、世界の経済成長の推進者である。このトレンドは漸進的であるが、決定的である。アジア太平洋は希望に満ちているが、不安材料がないわけではない。様々な事象が結びつきあう世界において、アジア太平洋の平和と安定及び繁栄は欧州の平和と安定と密接に関連している。

だからこそ、日本は欧州のパートナーと一層緊密に協力していく用意がある。

日本は、国際協調主義に基づく積極的平和主義の立場から、国際社会の平和、安定及び繁栄のためにこれまで以上に積極的に貢献していく。この新たな原則に基づき、国家安全保障会議の設置、国家安全保障戦略の策定といった新たな取組がなされている。日本は戦後一貫して平和の歩みを堅持し、自由と民主主義を尊重してきた。第二次世界大戦の終結から70周年となる2015年を前に、私は、いかに平和、民主主義、人権などが日本国民のアイデンティティの一部となってきたかを強調したい。国家安全保障戦略は、日本がこの道が続けることを明らかにしている。また、欧州との協力を重視していることを明確にしている。

全ての主要国は、世界の平和と繁栄の確保に責任を有する。このため、日本は、同盟国たる米国との協力を深めつつ、アジア太平洋地域内外のパートナーとの信頼・協力関係を強化していく。その中で、特にEUやNATOを含む欧州との協力は、とりわけ大きな潜在力を有している。

日本と欧州はより安全で良い世界を築くための能力も意思も有している。我々の強みは、自由、民主主義、人権といった基本的価値に根ざしており、特に法の支配は、我々の将来の協力の道を照らすものである。

第一に、日本と欧州は、「開かれ安定した海洋」から利益を得ており、国連海洋法条約を含む、法の支配に基づく海洋秩序の強化のために協力すべきである。特に、公海上の航行及び飛行の自由は世界の繁栄のみならず安定のために重要である。沿岸国の海洋秩序維持のための能力構築支援は有望な協力分野であり、日本と欧州はソマリア沖及びアデン湾で海賊対処のために協力している。また、南シナ海の関係国に対し、実効的で法的拘束力のある行動規範の策定を促すことができる。EUは海洋安全保障戦略を6月に策定予定であり、日本は、欧州と協力していくことを楽しみにしている。

第二に、日本と欧州は、サイバースペースにおける法の支配の確立に協力すべきである。驚くべきことにこのグローバル・コモンズをいかなるルールが支配するのかについて合意はない。日本は、国連憲章を含む既存の国際法が適用されるとの立場である。サイバースペースの問題は、地理的距離のいかんによらず、欧州とアジアの安全保障が密接に関係していることを示す分野である。

第三に、日本と欧州は、宇宙への自由なアクセスと持続可能な利用を確保するために協力すべきである。ASAT 実験の防止や衛星の衝突の回避は各国にとっての利益であり、日本と欧州は、宇宙活動に関する行動規範の早期策定に向け協力すべきである。

我々の強みは、また、冷徹なリアリズムに裏打ちされた平和へのコミットメントに在る。軍縮不拡散は、この我々の強みを必要とする。唯一の戦争被爆国の、そして広島出身の外務大臣として、ここでは核兵器のない世界に向けた日本と欧州の協力を焦点を当てたい。

世界にはいまだ 17,000 以上の核弾頭が存在する。イランや北朝鮮の核問題、さらには核テロリズムの問題は、世界の深刻な懸念事項である。核兵器のない世界を追求するに当たり、我々は、核兵器が使用された場合の人道的影響とますます多様化する核リスクの双方を認識する必要がある。このような認識に立ち、私は、核不拡散のための「3つの阻止」、すなわち、新たな核兵器国出現の阻止、核開発に寄与し得る物資、技術の拡散の阻止、及び核テロの阻止を提案したい。さらに、核軍縮のための「3つの低減」として、すなわち、核兵器の数の削減、核兵器の役割の低減、核兵器を保有する動機の低減を提唱したい。このイニシアティブを推進する上で、欧州の支持と協力を得たい。

不拡散は喫緊の課題である。日本と欧州は 2015 年の NPT 運用検討会議を成功させ、包括的核実験禁止条約の早期発効に向けて貢献すべきである。私は、独、オランダ、ポーランド、トルコを始めとする関係国の外務大臣と NPT の取組を通じ協力していることを喜ばしく思う。次回の NPT 会合は、4月に広島で行われる。核兵器のない世界という崇高な目標の実現に向けて、被爆地から力強いメッセージを発したい。核セキュリティについては、日本と欧州は、ハーグで開催される核セキュリティサミットが具体的成果を上げられるよう協力すべきである。また、輸出管理においても、日本と欧州は、特に懸念国に対する武器及び汎用品の責任ある輸出管理に対するコミットメントを通じ、範を垂れるべきである。

これらは、日本と欧州が共に世界のために協力できるいくつかの道である。我々は、共通の価値と平和及びリアリズムへのコミットメントに立脚する指導力を発揮することで、変化をもたらすことができる。私は、欧州の友人と共に行動に移すことを楽しみにしている。